

古くから受け継がれてきた日本の良き伝統芸能

～野村萬齋 狂言の世界～

日本の古典芸能のひとつである“狂言”

鎌倉時代から室町時代の頃に確立し、今日に至るまで一度も途絶えず
伝承されている。

野村萬齋による解説もあり、初めての方でもわかりやすくご覧いただけ
ます。是非、室町時代から受け継がれるユーモア溢れる“笑いの
至芸”をご堪能ください。



- ◆構成案～解説→狂言1番→狂言2番（予定）
- ◆一行人数7～10名、1ステージ90分～120分、一日1回公演

野村 萬齋（のむら まんさい）

1996年生まれ。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。
3歳で初舞台。東京藝術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。

国内外で多数の狂言・能公演に出演する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、『敦一山月記・
名人伝一』『マクベス』『子午線の祀り』『能 狂言『鬼滅の刃』『ハムレット』はじめ、古典の技法を
駆使した作品の演出など、現在の日本の文化芸術を牽引するトップランナーのひとりとして幅広く
活躍。

94年に、文化庁芸術家在外研修制度により渡英。

芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、
毎日芸術賞千田是也賞等受賞多数。

21年観世寿夫記念法政大学能楽賞、22年松尾芸能大賞受賞。石川県立音楽堂邦楽監督、
東京藝術大学客員教授。（公社）全国公立文化施設協会会長。